

2017年年始の集い・ミサ説教

2017年1月9日 主の洗礼 東京カテドラルにて

[\[聖書朗読箇所\]](#)

説教

新しい年を迎え、今日、わたしたちは、主の洗礼のミサを献げます。

主イエスは、洗礼者ヨハネから、洗礼をお受けになりました。ヨハネは、むしろ、自分こそ、イエスから洗礼を受けるべき者であると思いましたが、イエスの言葉に従って、イエスに洗礼を授けたのであります。どうして、イエスが洗礼を受けたのか。

考えてみますと、たしかに、イエスは罪のゆるしを受ける必要はありませんでしたが、わたしたち罪人と連帯し、わたしたちと一緒に、わたしたち人類の罪の赦しのために、洗礼をお受けになったのだと思います。

洗礼を受けられたときに、聖霊が鳩の形をして、イエスの上に降りてきました。そして、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」(マタイ3・17) という声がしたのであります。このときの光景を、いま、思い起こしながら、わたしたち、東京教区の今年の歩みに、思いを馳せたいと思います。

聖霊は、イエス・キリストご自身の霊でありました。イエスは、いつも、聖霊に生かされ、聖霊の導きに従って、その生涯を、天の父にお献げになりました。イエスのなされたことは、すべて、御父の御心に適うことであります。

わたしたち教会は、聖霊を受けて、聖霊の降臨の日に誕生し、今日まで、その使命を継続して来ました。いま、わたしたち東京教区は、改めて、自分の使命、自分の役割を考え、それを忠実に遂行することができるよう、聖霊の助け、聖霊の照らし、聖霊の導きを、願い求めたいと思います。

わたしたちの生き方の基準は、主イエス・キリストであります。主イエス・キリストが何をおっしゃったか、どのように生きられたかということ、いつも、思いながら、祈り求めながら、いま、ここで、主イエスは、どのように言われ、どのように行われるであろうかということをお考えつつ、日々の歩みを、進めていかなければならないと思います。

イエスの場合、聖霊が、イエスご自身の霊でありまして、イエスと天の御父との間には、完全な一致がありました。わたしたちの場合は、残念ながら、そのようにはいかないであります。残念なことに、わたしたちの間には、御心に適わない、

色々なことがあります。

たしかに、教会は、父と子と聖霊の神様によって、設立されましたし、絶えず、聖霊の注ぎを受けております。しかし、わたしたちの方は、十分に、適切に、忠実に、聖霊の導きに従っていないがゆえに、さまざまな問題、さまざまな不適切なことを引き起こしているのです。

この一年の歩みが、少しでもより御心に適う、より清らかな、よりふさわしい歩みとなりますよう、わたくしども、心を合わせて、神に祈り、それだけではなく、わたしたちの間で、助け合い、あるいは、戒め合える、支え合うことが大切であると思います。

聖霊の働き、それは、天の父である神から来るものでありますが、同時に、聖霊は、他の人々の意見、感想、そして、この社会の中で起こっている、色々な出来事を通して働く、そのような動きの中に、聖霊の働きがあると思います。わたしたちは、個人でも団体でも、自分の思い、自分の考え、思い込みに捉われなくて、心を開き、他の人々の思い、意見、忠告を、謙虚に、落ち着いて聞き、神の御心に従って、生きることができますよう、この一年を、特に、主なる神様に、祈りのうちに献げたいと思います。

「いつくしみの特別聖年」は、昨年11月20日に終了いたしました。この精神は、世の終わりまで続かなければなりません。

「あなたがたの天の父が、いつくしみ深い方であるように、あなたがたもいつくしみ深い者でありなさい。」と言われた、主イエスに従い、この一年、特に、いつくしみ深くあるということ、更に追い求め、祈りながら歩んでいきたいと思っております。

聖書朗読箇所

第一朗読 イザヤ書 42・1-4

福音朗読 マタイによる福音書 3・13-17

(福音本文)

第一朗読 イザヤ書 42・1-4

〔主は言われる。〕

見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。

わたしが選び、喜び迎える者を。

彼の上にわたしの霊は置かれ

彼は国々の裁きを導き出す。

彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。

傷ついた葦を折ることなく
暗くなってゆく灯心を消すことなく
裁きを導き出して、確かなものとする。
暗くなることも、傷つき果てることもない
この地に裁きを置くときまでは。
島々は彼の教えを待ち望む。

主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び
あなたの手を取った。
民の契約、諸国の光として
あなたを形づくり、あなたを立てた。
見ることのできない目を開き
捕らわれ人をその枷から
闇に住む人をその牢獄から救い出すために。

福音朗読 マタイによる福音書 3・13-17

〔そのとき、〕イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどませようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」
しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。
そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。
そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

[説教へ戻る](#)